

## 英語ディベートで 会話力養う

鳥取東高校 (2年) 井戸垣 歩希さん

日常的に海外の映画や本を読んで語学の知識を増やし、英語のディベート大会へ参加。外国語でのコミュニケーションに大切な「伝える力」「聴く力」を養い将来の夢をかなえる。



英語ディベートは設定された論題に反対、賛成の立場で討論するチーム競技。即興で自分の意見を英語で表現するスピーキング力と相手の会話を聞き取るリスニング力が、勝敗を分ける。2025年12月に出場した全国大会では、課題の社会情勢について相手の主張に疑問を持ちつつ、自分の意見に置き換えて議論。他校の生徒との白熱したやり取りに「その瞬間、瞬間が楽しく、回を重ねるごとに上達し

ていくので自信になる」と感じると同時に「もっと上を目指したい」という気持ちが芽生えた。

中学生のときに家族で出かけた海外旅行で興味がわいた英語。高校では、新しいことにチャレンジしたいと女子サッカー部にも所属し、文武両道に努める。将来は語学を生かし海外で仕事をするのが目標。「日本と外国をつなぐ架け橋になりたい」。夢への挑戦は始まったばかり。

輝く高校生・高専生インタビュー

鳥取を舞台に輝く若い力。  
未来をみつめ、がんばる高校生・高専生を紹介する。



## 一歩を踏み出す 緊張を楽しむ

鳥取西高校 (2年) 小山 妹子さん

自信がなかった英語に囲まれる環境に飛び込み、自らの成長に手応えを感じた。この経験から得た「とりあえずやってみる」精神で、興味の赴くまま挑戦を続けていく。



1年時のクラスが挑戦に積極的で、「何か始めなければ」と参加したのが、鳥取県教委と米スタンフォード大が連携して開く県内高校生向けオンライン講座「グローバルリーダーズキャンパス」だった。講義内容は米国の歴史や政治、持続可能な開発目標(SDGs)など幅広く、全編英語。毎回課される討議では、聞き取れなかったり、言葉が出てこなかったりと苦労したが、回を重ねるほど発言への意欲が高ま

り、他者の視点に触れて自らの考えが深まっていくのが面白かった。そんな議論への姿勢や英語での研究発表が高く評価され、本年度の最優秀受講者に選ばれた。

大きな挑戦を経た今、「新たな一歩を踏み出す緊張すら楽しいと感じる」と話す。関心を抱いた方向へ臆せず進み、「多様なことに手を伸ばせる人になりたい」と目指す姿を思い描く。

## 輝く高校生・高専生 インタビュー

勉強、部活動、生徒会、地域活動、趣味など、それぞれの舞台で自分の夢や目標を見つけ、一歩ずつ前に進む  
高校生・高専生の姿を紹介します。

ENJOY



## 福祉現場で磨く 対話力

ながもと かこ  
鳥取湖陵高校 (2年) 長本 佳子さん

看護職への就職を志し、ボランティア活動を通じて対話力を磨いている。福祉や保育の現場に立ち、人に寄り添う姿勢を実践の中で培い、将来の夢の実現につなげる。



人と向き合う力を身に付けたい。ボランティア部に所属し、週1回の定例活動に加え、土・日曜日も福祉施設や保育現場へ足を運ぶ。

高齢者施設では利用者の話に耳を傾け、人生の重みを学んだ。保育や地域イベントでは、相手の年齢や立場に応じて視線を合わせ、声のかけ方を工夫する大切さを体得。夏休みに3日間続けて参加した福祉施設での活動では、

長時間の支援を通じて信頼関係を築く難しさややりがいを実感した。

鳥取県のヘルプメイト資格取得に向け、必要な100時間の活動はすでに達成。後輩には「自分から動き、あいさつを欠かさないこと」を伝える。幼少期の入院経験で支えられた記憶を原点に、心身の両面に寄り添える看護師を目指す歩みは、着実に深みを増している。

## 仲間とつくる 鳥商ブランド

ほんじょう そうた  
鳥取商業高校 (2年) 本城 颯太さん

2025年10月、全校生徒429人をまとめる生徒会長に就任した。生徒一人一人の意見を尊重することを信条に、「鳥商」のブランドをみんなとつくり上げていく。



生徒会長を志したきっかけは、中学2年のときにさかのぼる。生徒会副会長として、笑顔あふれる学校を目指した「Smile月間」の取り組みを立案。友達との交流が増えれば自然と笑顔も増えると考え、体育祭の種目を増やして盛り上げを図ったところ、多くの生徒が楽しんでくれた。

「人の役に立つために動くことが好き」という性格。目標に向かって方策を考え、実行し、結果につながったときに充

実感を得る。

就任直後に開催された「鳥商デパート」では、大江ノ郷自然牧場(八頭町)のブースを担当。任期中には文化祭、体育祭、競歩大会などの行事が控えている。

生徒会長として不安を感じることもあるが、その際は一人で抱え込まず、周りを頼るようにしている。「自分は一人じゃない」と言い聞かせ、仲間とともに課題を乗り越えていく。

輝く高校生・高専生インタビュー

鳥取を舞台に輝く若い力。  
未来をみつめ、がんばる高校生・高専生を紹介する。



輝く高校生・高専生インタビュー

鳥取を舞台に輝く若い力。  
未来をみつめ、がんばる高校生・高専生を紹介する。



## 創作劇で 海の課題伝える

とみた ゆうま  
青谷高校 (2年) 富田 優真さん

かけがえのない地元の海を守るため、「ソーシャルアクション同好会」(15人)の部長として仲間とともに創作劇の上演や海岸清掃を通して、海の課題を広く発信している。



劇を演じるのは、同好会を母体とする「劇団海の気持ちメーカー」の5人。普段の会話を基に脚本を書き、夏休み前から練習を重ねてきた。高校生が海の課題解決に挑む「うみぼす甲子園2025」(海洋連盟主催)のファイナリストに残り、25年11月の決勝プレゼンで披露。海の気持ちを想像し、海を守る行動を呼びかける5分間の内容が高評価を受け、「海と日本プロジェクト賞」を受賞した。

また、昨年度に引き続き同好会が主催した「とっとり環境地引き網」(船磯海岸)や青谷小などでも公演を実施。「たくさんの人に見てもらい、達成感がすごくあった」と声をはずませる。今後はさらに海洋環境保全の重要性を地域に浸透させていくため、「小中学校などへの出前授業やSNSでの発信にも力を入れていきたい」と思いを巡らしている。

## 技術を磨き 自己記録更新

やまだ みゆ  
鳥取工業高校 (2年) 山田 美優さん

陸上競技の円盤投げで、2025年は鳥取県高校総体を突破し、中国高校選手権に出場。自己記録の更新を目指し、強みを伸ばし弱点を克服するための練習を日々重ねる。



円盤投げを始めたのは中学2年のとき。最初は円盤を思うように投げられず難しさを感じたが、好記録が出たときの達成感に魅力を感じ、高校でも競技を続けている。

練習は週5回。ダッシュ、メディシンボール投げ、ターンの練習、ウエイトトレーニングなどに励む。冬場は苦手な坂道ダッシュにも積極的に取り組んだ。

円盤投げの難しさは回転、体重移動、リリースの動作を

スムーズにつなげること。ターンは得意だが、良いタイミングでリリースすることは苦手だと感じている。

昨年出場した中国高校選手権では、強豪選手の投げ方を熱心に観察。ターンやリリース動作など参考になる点が多く、理想のフォームを追求するきっかけとなった。

自己ベストは23.38。「今シーズンは県総体で25.31、中国高校選手権で30.31を投げたい」

## 将来見据え スキルを磨く

こだま まちる  
智頭農林高校 (2年) 児玉 真智瑠さん

生徒会活動と専門技術(木材加工)の習得を両立し、日々、現場で考え行動する力を磨く。全国規模の校外活動にも出場し、将来の進路を見据えて、努力と経験を積み重ねる。



生徒会では学校行事の運営を担い、球技大会や学校祭では進行や調整役として現場を支えてきた。初めて運営側に立った行事を通じ、全体を見渡す視点と判断力の重要性を実感したという。

校外活動にも積極的だ。全国規模の協議に参加し、若手不足や高齢化が進む現状を踏まえ、スマート技術を農業にどう生かすかをテーマに発表。他校の意見に触れ、考え方の幅を広げた。

の幅を広げた。

木材加工分野では、祖父が大工だった影響から技術職を志す。2026年夏の「若年者ものづくり競技会」には鳥取県代表として出場予定で、放課後に加工精度を高める練習を続ける。誤差の少なさや図面読解力が問われる競技に向け、外部指導も受けながら準備を進める。人と関わる力と確かな技術を武器に、将来像を具体化している。

## 目標は 「夏の甲子園出場」

たなか まさき  
岩美高校 (2年) 田中 真輝さん

「何事もこうと決めたらあきらめない」—。野球だけでなく何事もひたむきに取り組む。野球部主将となり、「夏の甲子園」出場を目標に、仲間とともに日々練習に打ち込む



兵庫県新温泉町出身。中学時代に所属していたクラブチームの先輩の影響を受け、岩美高で野球を続ける。1年からレギュラーになり、主力として活躍。

2025年夏の高校野球選手権鳥取大会では2勝し、20年ぶりの8強進出に貢献した。毎日苦楽をともにする仲間たちとの勝利は格別で、野球の面白さを改めて実感している。芽生えた自信をさらなる成長につなげるため、新チームの

主将として、みんなが伸び伸びと野球に打ち込むことができる環境づくりを心がける。

自らは「全打席出塁する気持ち」で打席に立つ。練習、試合を通じ、大声で指示を送るなど部員たちを鼓舞する。13人の部員で少人数だが、25年秋の県大会でも1勝し、地力を見せた。2回戦の鳥取城北戦では敗れたものの多くの収穫があった。夏までに課題を克服し、鳥取県の頂点を目指す。

輝く高校生・高専生インタビュー

鳥取を舞台に輝く若い力。  
未来をみつめ、がんばる高校生・高専生を紹介する。



輝く高校生・高専生インタビュー

鳥取を舞台に輝く若い力。  
未来をみつめ、がんばる高校生・高専生を紹介する。



## 好きを原点に 英語力磨く

よこやま えりか  
鳥取敬愛高校 (2年) 横山 英里香さん

「人と違って大丈夫」。自らのマインドを形成した洋楽の歌詞とアニメキャラクターとの出会いを原点に、英語好きに。日常会話レベルを目指し、英語力を磨いている。



幼少期から父が聴いていた洋楽に触れ、日本語と違う発音が楽しく、真似して歌っていた。そんな洋楽が小学生の頃、いじめに苦しんだ時期に心の支えになったこと、さらに英語が堪能なアニメキャラクターに憧れたことから、英語学習に力を入れるようになった。

昨年9月、「鳥取県高校生英語弁論大会」に出場。高いハードルに心が折れそうになることもあったが、動画投稿

サイトで英語を聞いて耳で覚えたり、両親に手伝ってもらいながら練習を重ねたりと、伝える英語を追求した。

全力を出し切った結果、4位に。上位入賞者に贈られる海外研修への参加権を得た喜びとともに、悔しさも残った。「研修で現地の人とたくさん交流し、本場の英語のアクセントを吸収したい」。将来英語圏で仕事することを見据え、自分らしく好きなことを極めていく。

## 未来へ思いを 筆に託す

おぐら ななみ  
八頭高校 (2年) 小椋 菜々美さん

筆と音楽、動きを融合させたパフォーマンスで、文字に込めた思いを届ける。積極的に地域や大会の舞台に立ち、書道部の仲間5人と一つの作品を作り上げている。



書道部の部長として舞台表現に挑んでいる。文字に込めた思いをどんな表情や動きで伝えるか、部員5人で意見を出し合い、作品を仕上げる過程にやりがいを感じている。

昨年は岡山で行われた中国地方大会に出場し、地域イベントでも「人権」や「税」をテーマに発表するなど、活動の幅を広げてきた。部の存続が危ぶまれた時期もあったが、後輩の加入で再び活気を取り戻した。

舞台に立つときの緊張感や達成感が大きな励みとなり、仲間と過ごす時間が日々のモチベーションになっている。「今後は観客の心により深く響く作品をつくりたい。見てくれる人の記憶に残るようなパフォーマンスを届けたい」と語る。

一筆一筆に込める真っすぐな思いが、次の舞台への原動力だ。

## 地域の魅力周知に 企画を立案

にしおか みさき  
倉吉東高校 (2年) 西岡 美咲さん

自分たちで楽しく暮らせるまちに一。同級生チームで地域を盛り上げるまち巡り企画を考案。目指すのは、観光客だけでなく住民にまちの魅力を再発見してもらうことだ。



正解のない問題に取り組む探究の授業や文化祭の企画参加をきっかけに、みんなで話し合いながら課題を解決していく校外活動に挑戦。2025年夏、仲間たちとチームを立ち上げ、地域活性化、をテーマに白壁土蔵群のまち歩きを楽しむデジタルスタンプラリーを企画した。

進め方に戸惑う中、商店街の店主からのアドバイスや地域のイベント「福高祭」をヒントにメンバーで話し合いを

重ね、店舗への協力依頼やポスターのデザイン制作など協力しながら作業に奔走。「店舗の皆さんの温かさ、メンバーでの作業分担など人との関わり大切さを学べた」と振り返る。

スタンプラリーは3月末まで展開中。「身近な観光地なのに自分たちも知らないことがたくさんあった。もっとみんなに地元の魅力を知ってほしい」。笑顔で多くの参加を呼びかける。

## 仲間とともに 全国上位へ

あんどう れい  
鳥取城北高校 (2年) 安藤 玲さん

バスケットボールの魅力は「チームプレーの楽しさ。自分の成長を感じるうれしさもある」。国際大会での経験を糧に個人スキルを磨き、仲間とともに「城北バスケ」を全国上位に導く。



180センチの恵まれた体格を生かし、攻守の要となるセンターとして活躍。加えて内外から狙う正確なシュートが持ち味だ。

小学3年生から始めたバスケ。スポーツは得意な方ではなかったが、ミニバスの体験会で感じたゲームの楽しさと、熱中するとことんこだわる性格もあって一気にのめり込んだ。

2025年には県出身者で初めて、女子16歳以下のアジア

カップ日本代表に選出された。海外選手とのマッチアップは大きな刺激となり「自分の強みを生かしながら、攻守にわたって泥臭いプレーをしていくことが大切だと学んだ」

バスケを始めたころから憧れだった鳥取城北高でプレーができる喜びを感じながら、マルチなプレイヤーを目指し、シュート力を高め、フィジカル面を鍛え、チームの勝利のため全力を尽くす。

輝く高校生・高専生インタビュー

鳥取を舞台に輝く若い力。  
未来をみつめ、がんばる高校生・高専生を紹介する。



輝く高校生・高専生インタビュー

鳥取を舞台に輝く若い力。  
未来をみつめ、がんばる高校生・高専生を紹介する。



## 郷土の民俗芸能伝承に 意欲

やまます さえ  
倉吉西高校 (2年) 山増 小絵さん

倉吉市高城地区に伝わる「高城牛追掛節」の保存会メンバーとして、大阪・関西万博会場での公演を経験した。「地域の文化を未来につないでいきたい」。伝承への思いは熱い。



高城牛追掛節は、張り子の牛と牛引きの様子を尺八の音と歌に合わせてユーモラスに表現する民俗芸能。小さい頃から間近で見て育った。牛を引く追い子役を務め、牛役と息を合わせたリアルな動きを追求。「観客に牛の頭を近づけると盛り上がる」とサービス精神も忘れない。

2025年7月には大阪・関西万博のイベント会場に立ち、11月に香川県であった中四国郷土芸能フェスタにも鳥取県

代表として出場。立て続けに大舞台をやり遂げた。「万博では外国の人も多く、緊張したけど喜んでもらえた」と笑顔をほころばせる。

人前に出ることは苦手だったが、公演を重ねるうちに自信が付き、チャレンジ精神も芽生えた。「これからもたくさんの人を楽しませる公演ができれば。小学校などでも披露して、興味を持ってもらえる子どもたちを増やしたい」

## 勝利に向け 士気高く

うるしばら そうた  
青翔開智高校 (2年) 漆原 蒼太さん

ハンドボール部部長として「士気の高さはどこにも負けない」と胸を張る。自らの得意分野を生かして部をまとめ、大会優勝の志を共有する仲間と日々努力を重ねる。



小学校から続けていたサッカーの部活が高校になく、中学時代から誘われていたハンドボール部へ入部した。競技歴こそ浅いが、4人兄弟の長男として自然に身に付いた「他者に気を配れるところ」を先輩や顧問から認められ、部長に就任。戦術面とモチベーションの維持を担う副部長とともに1、2年生計11人の部を率いている。

部員は皆、授業の合間に強豪校や海外チームの試合動画

を見て研究し、休憩時間も練習するなど熱心だ。その熱量から時に意見がぶつかる仲間をまとめるうち、コミュニケーション能力が磨かれ、視野も広がってきた。

本年度、目標としていた全国高校選抜鳥取県予選制覇はならず。「今後の大会に向け、県内外のさまざまなチームと試合をして備えたい」。冷静な統率役でありながら、誰よりも熱い情熱を胸に宿す。

## 壁の攻略目指して 練習に没頭

鳥取中央育英高校 (2年) 福光 蒼里さん

スピード、リード、ボルダアの3種目で競うスポーツクライミング。がっちりとホールドをつかみながら高い壁を登り進め、レベルアップ&全国大会出場を目指す。



父に連れられ練習を始めたのが5歳の頃。「高い所に登るのは好きだったし、同世代の仲間と一緒に練習するのも刺激になった」。主力として打ち込むのはリードとボルダア。制限時間内にどれだけ高く登れるかを競うリードは苦手な種目だが「何度もトライして良い地点まで登れた時は達成感が大きい」。課題、といわれるルートの攻略を目指すボルダアは「ワクワクする。新しい動きに挑戦して成功するとテ

ンションが上がる」とはにかむ。

部員が2人で練習に限られるため、週5日は学校外の施設へ足を運び、自作の練習メニューに没頭。県外遠征などでトレーニングを積んできた結果、2024年は初の国民スポーツ大会出場で8位入賞を果たした。「全国大会はレベルが高く、差を感じた。春に向けてしっかり筋トレし、レベルアップを図りたい」と気合を入れる。

## 資格取得に チャレンジ

倉吉農業高校 (2年) 横井 絢さん

大学受験のみならず、将来に向けて視野が広がる資格の取得。英語検定を筆頭に、興味を持ったさまざまな資格を得るために日々学びを重ね、自身の可能性を広げる。



入学後、農業関連だけでなく多彩な経験を重ねる中で、資格の取得に興味を持った。一番は英語検定。中学時代、成績が良くなかった英語力を高めたいと、持ち前のチャレンジ精神に火が付いた。独学で英検3級を取得し、現在は2級取得に向けて勉強中だ。

2025年の夏は交換留学生としてニュージーランド研修に参加し、ホストファミリーらとの会話に挑戦。「実践はやっ

ぱり難しかった。もっと経験を重ねて自信をつけなければ」と自身を奮起させる。

数学検定や日本農業技術検定、測量士補の資格など、多彩な分野へ興味は尽きない。全力で打ち込んでいく精神力は強みだ。「勉強には苦手意識があったけど、資格、は自分の頑張ってきたことが目に見える結果。やる気につながる」。将来を見据え、さまざまな資格取得に意欲を燃やす。

輝く高校生・高専生インタビュー

鳥取を舞台に輝く若い力。  
未来をみつめ、がんばる高校生・高専生を紹介する。



輝く高校生・高専生インタビュー

鳥取を舞台に輝く若い力。  
未来をみつめ、がんばる高校生・高専生を紹介する。



## 女子野球部の 盛り上げに意欲

倉吉北高校 (2年) 谷口 実花さん

鳥取県内の高校で初めて創設された女子硬式野球部で主将を務める。目標は学校単独チームでの試合出場。「野球の魅力をもっと広めたい」とメンバー獲得に情熱を燃やす。



小学3年で野球の楽しさを知り、中学では部活のほかクラブチームに所属して練習に明け暮れた。高校進学を決める際、タイムリーに誕生した初の女子硬式野球部の存在を知り「高校でも続けられる」と喜び勇んで入学を決めた。

現在の部員は4人。主将として1年生3人を引っ張っていく立場だ。「1年のときはがむしゃらに頑張るだけだったが、主将は指示力と統率力も必要。メンバーの特徴を生かした

チームプレーを心がけたい」と力を込める。

昨年夏は、兵庫県で開かれた全国高校女子硬式野球選手権大会に連合チームのメンバーとして出場。ベンチで強豪チームの試合を目の当たりにし、大きな刺激を受けた。当面の目標は部員を増やし、単独チームで全国大会に出場すること。「トレーニングを積み技術を高めて、みんなで創り上げる野球を楽しみたい」と前を向く。

## やり投げで 全国大会優勝へ

倉吉総合産業高校 (2年) 加藤 優衣さん

高校で陸上競技のやり投げに出合い、昨年秋の中国新人大大会で見事優勝。44.51の自己ベスト記録を打ち出した。目下の目標、今春の全山陰大会に向けて練習に余念がない。



小さい頃から体を動かすことが大好きで、小学校で野球スポーツ少年団に入部。中学で陸上を始めると、1年で短距離走、2年で走り高跳びと砲丸投げ、3年で四種競技と多くの種目に挑戦。高校から始めたやり投げで記録が伸びていくことに面白さを感じ、メイン競技として打ち込んできた。

心がけるのは、やりを投げるタイミングに重要な足の運び方。「最後のステップでラストクロス、で右足を早めに着地

させてしまう癖を重点的に直したい」と力説する。

逆に記録が伸びにくいと感じる高跳びは、助走のスピードと目線の角度を意識して練習。種目ごとに苦手な動作を克服するため、日々特訓を重ねる。春から大会がめじろ押し。「しっかりと技術と体力を蓄えていきたい。目指すは全国大会で優勝!」。相棒、のやりを片手に目を輝かせる。

## 未知の領域・体操に 挑戦!

かど わき そう た  
米子西高校 (2年) 門脇 颯大 さん

自らの強みは「継続力」。平日は床運動と跳馬が基本、土日は専門器具がそろった他校で練習。十分な設備がなくても、負けない、休まない精神力の強さで挑戦を続ける。



高校入学時の部活動紹介で体操と出会う。先輩が披露したバク転などの大技に魅了され、自分もやってみたく思ったことが、未知の領域に挑戦するきっかけだった。

最初は技もなかなか習得できず、部員の減少などでモチベーションが下がる時期もあった。しかし、その中で新しい技ができるようになるうれしさや楽しさを見つけ、2025年はインターハイに出場するまでに成長した。

現在は部員1人で活動中のため、今後も体操を続けるかどうかは未定。最後の大会という覚悟で挑んだ新人戦は「自分のベストが出せた演技だった」と振り返る。

2年生のうちに、倒立、ロンダート宙返り、前宙半ひねりなどできるだけ多くの技を安定させ、悔いが残らないように全力で体操と向き合うことが目標。

## 心地良い ハーモニーで魅了

ふじ はら こう すけ  
湯梨浜学園高校 (2年) 藤原 孝輔 さん

中学高校合同の合唱部の部長としてメンバーをまとめる。一人一人の違う声为重なり合って生まれる心地良いハーモニーで、聞く人を魅了する。



高校1年のとき、文化祭と音楽会でクラスメートと合唱を披露。「みんなで歌うことが楽しく、声を思い切り発することでリフレッシュにもなる」と合唱部への入部を決めた。低音より高音が出しやすいことから、パートはテノールを担当。3年生の引退に伴い、先輩方の意志を引き継ぐべく部長となった。

部活動は個々の発声練習に始まり、パートごとに練習を

重ね、全員で声を合わせる。「部員を引っ張っていく立場なので責任は大きい。でもやりがいはある」。意識して声に強弱を付けるなど自分の発声方法を共有しながら、みんなが楽しく歌えるようなアドバイスを心がけている。

当面は、恒例となっている8月のNHK全国学校音楽コンクール出場に向けた練習が続く。「部員一人一人の個性を生かしながら、練習を充実させていきたい」と話す。

輝く高校生・高専生インタビュー

鳥取を舞台に輝く若い力。  
未来をみつめ、がんばる高校生・高専生を紹介する。



輝く高校生・高専生インタビュー

鳥取を舞台に輝く若い力。  
未来をみつめ、がんばる高校生・高専生を紹介する。



## 世界を舞台に 学びを深める

たき だ えり か  
米子高校 (2年) 瀧田 恵里花 さん

武術太極拳を通じてさまざまな出会いを経験し、国際交流や環境問題に関心を持った。将来は「乾燥地での緑化や農業を通して、人々の生活を支えたい」と夢を描く。



小学生の頃、武術太極拳の練習のため訪れた中国で、経済発展を遂げる都市とホームレスの人々の姿を見て、混沌とした世界に衝撃を受けた。その後、全国大会で優勝するなど活躍の舞台が広がる中で、国や世代を超えた交流を通して文化や考え方の違いを知り、視野が広がった。

高校ではJRC(青少年赤十字)で地域の清掃や募金などのボランティア活動に取り組む。鳥取県代表として参加し

た「International Meeting Tokyo 2025」では、各国の参加者と気候変動や人道危機について話し合った。

夏休みには初めての一人旅でトルコへ行った。今後は海外ボランティアにも挑み、「世界で学びを深めたい」と考えている。大学で乾燥地での緑化や農業を学んで環境面から人々の生活を支えることを目標に、挑戦を続けていく。

## インターハイで 刺激受け成長

やまもと けい ごと  
米子東高校 (2年) 山本 圭悟 さん

2025年のインターハイ男子1500mに出場、中国大会よりタイムを縮める力走を見せた。大学進学を視野に勉強との両立を図りながら、さらなる飛躍を期す。



市民マラソン大会に出場していた父と一緒に小学3年生ごろから走り始め、自然と陸上に親しんだ。

1500mでは2年生の夏にインターハイ初出場。中国大会よりも3秒タイムを縮め、「レベルの高い選手と一緒に走ることができ、いい刺激になった」と振り返る。5000mや駅伝にも挑戦し、「陸上はしんどいが、目標を達成したとき周りから評価されるのが楽しい」とポジティブ

に話す。

進路については「経済の流れや、経済がどう回っているのかに興味湧いて」と経済学部への進学を考えている。陸上の練習を「ここまでする」と決めたところまでやり遂げ、隙間時間を上手く勉強に充てるなど、工夫しながら競技と勉強の両立を図っている。

## 陸上競技で 全国を目指す

わしざわ たくみ  
境高校 (2年) 鷲澤 匠さん

中学生のころに経験した駅伝で陸上競技に興味を持った。高校から本格的に競技を始め、のめり込んだ。信頼できる仲間や先生と出会い、今日も目標に向かって走る。



中学ではバスケット部に所属し、駅伝部を掛け持ち。もともと走りには少し自信があったが、駅伝に取り組むうちに陸上競技への好奇心が湧いた。「もっと本気で走ったら、この自分はどうなるだろう」

高校に入学し、迷わず陸上部に入った。自分の強みは練習にコツコツと打ち込む継続力と、フィジカルの強さと分析する。体の状態を確かめながらマッサージをしてコンディ

ションを整え、約1時間の自主トレも欠かすことはない。進級して初の大会で努力が実を結んだ。800mで1分台の好記録をたたき出し、新人戦でも1位に輝いた。

つらく厳しい練習もあるが、「陸上部の心強い仲間と信頼できる先生方のおかげ」と結果への感謝を口にする。「次の挑戦は総体で1位。終目標はインターハイへの出場」ときっぱり。これまで以上に練習に励むつもりだ。

## 調理師を目指し 経験を積む

もりた あつこ  
米子南高校 (2年) 森田 温子さん

物心着いたときから調理師の道を志し、目標のために挑戦を怠らない。調理師免許取得に向けた勉強に限らず、部活動や学業も熱心に取り組み、さらに高い目標を掲げる。



得意なことはお菓子作り。幼い頃から、家にある材料でなんでも作ってしまう料理上手な母と一緒にお菓子を作っていた。自然と調理師を目指すようになり、必要な資格や苦手の包丁使いを学ぶため、米子南高校調理コースに進学を決めた。

普段からキッチンに立ち、家族のために腕を振るう。1年時に応募した「こどものための愛情弁当コンテスト」では、

かわいいだけでなく自然で動きのあるうさぎをモチーフにした彩り豊かな作品「うさぎさんとお花弁当」で入賞。次は優勝を目指す。その他にも好物の桃を使ったタルトで料理コンクールで入賞するなどチャレンジとアイデア探しに余念がない。「調理時は特に、衛生面に気を遣う」と話す。

所属するバレーボール部では元気で明るさでチームを引っ張り、忙しい毎日の中でも彩り豊かな学校生活を過ごす。

輝く高校生・高専生インタビュー

鳥取を舞台に輝く若い力。  
未来をみつめ、がんばる高校生・高専生を紹介する。



輝く高校生・高専生インタビュー

鳥取を舞台に輝く若い力。  
未来をみつめ、がんばる高校生・高専生を紹介する。



## インターハイ予選で 上位に

やまうち たかと  
境港総合技術高校 (2年) 山内 貴翔さん

バスケットボールとの出会いは小学3年生。スピード感あふれるプレーを目の当たりにし「カッコいい!」と憧れた。中学・高校と迷わずバスケット部に入部。主将としてチームをリードする。



身長はチーム一の186cm。部員は5人と部員不足の状況にも、大きくても走れる選手。として試合に応じてさまざまなポジションをこなす。「厳しい展開の試合でも諦めない選手」と顧問の信頼も厚い。バスケットは試合や練習でチーム間のコミュニケーションが問われる。「自分からコミュニケーションを取り、みんなで話し合って決める」がチームづくりのモットーだ。

2025年8月の国民スポーツ大会中国ブロック大会には、少年男子の部に県代表として出場。主将も務めた。試合では、相手選手に当たり負けるなど力不足を痛感。以来、休日のランニングなど部活以外でも自主的にトレーニングを重ねる。

目標はインターハイ予選で上位進出。兼部するeスポーツ部では、県大会で入賞するほどの腕前で「バスケットでも結果を残す」と部活や自主トレに向き合う。

## カンフーで全国、 世界の頂へ

あおき くらうど  
米子工業高校 (2年) 青木 蔵人さん

武術太極拳(カンフー)を幼少期から始め、全国トップレベルでの活躍を続ける。競技が縁で大阪・関西万博の舞台に立つなどの経験を生かし、さらなる高みを目指す。



小学校2年生のときに親から勧められて見学したカンフー教室で、現在の師匠である中国人講師の圧倒的な迫力の演舞に魅了され、門を叩いた。

カンフーはさまざまな型があり、減点方式でポイントを競う個人競技だが、「技術や型を作り上げるのはチーム」だと話す。練習や試合で、仲間と「応援」を意味する「加<sup>ジャイ</sup>油」と声をかけあい、チームワークと互いの技術を高め合う。好きな型は

身体を回転させながら跳躍して蹴りを放つ型「旋風脚<sup>せんぷうきゃく</sup>」で、飛ぶ動作と着地が決まったときの爽快感は格別だとはにかむ。

2025年には台湾のチームとの交流で、大阪・関西万博で演舞を披露した。大舞台の高揚感を味わうとともに、トップ選手とのレベルの差を実感。目下の目標である2026年ジュニアオリンピックカップ、その先のユース五輪に向けて研さんを続ける。

## 総体・JOCで メダル獲得

あかぎ はるね  
米子北高校 (1年) 赤木 陽音 さん

腰や精神面の不調を乗り越え、国民スポーツ大会少年女子板飛び込みで準優勝に輝く。前回悔しい思いをした高校総体・全国JOCジュニアオリンピックカップのメダル獲得へリベンジを誓う。



小学生の頃、親の知り合いを介して飛び込みのコーチと出会い、水泳から飛び込みに転向した。最初の思い出は「11mの高さから飛ぶのも怖かったけど楽しかった」と振り返る。

練習に参加するうちに水泳とは違う飛び込みの魅力にはまり、小学6年生のときにはJOCで銀メダルを獲得。「これまで一番うれしかった」と目を輝かせる。

2026年の目標は、高校総体とJOCでのメダル獲得。シー

ズン中はほぼ毎日、鳥取県営東山水泳場でコーチとともに練習に励む。「褒められて伸びるタイプ」と笑い、「コーチや母のちょっとした声掛けがうれしくて、前向きな気持ちで頑張れる」と感謝する。「緊張しても実力が発揮できるよう確実性を上げていきたい」と抱負を語り、昨年の借りを返すべく一発勝負の大舞台に挑む。

## 荒神神楽の楽しさを 伝えたい

うすい  
日野高校 (2年) 碓井 さくらさん

小学生のときに祖父と一緒に見た夜神楽に感動した。高校で郷土芸能部の荒神神楽に出会い、仲間と互いに鍛えてきた。「経験は必ず将来に生きる」と部活に、夢に突き進む。



学校紹介の動画で、郷土芸能部の活躍にひかれて入部を決めた。演舞の中では大蛇を担当している。最初は構成を全うすることで精いっぱいだったが、今は大蛇の動きに近づけるため、姿勢を低くするなど見せ方を工夫することに挑戦中。和紙でできた大蛇は重く、ランニングや筋トレなどの体力づくりも欠かせない。

部員が気持ちを一つにして、全国レベルの大会に向けて

練習に励んできた。「神楽甲子園」で「昨年よりうまくなったね」と来場者から声をかけてもらえたことがうれしかった。

福祉施設や地域のイベントでも披露する。公演は観客との距離が近いので、より楽しんでもらえるように「神楽漬け」の日々を送る。将来は語学力を生かし、国際的な仕事に就きたいと考えている。「日本の文化として郷土芸能の話ができたら」と思いをはせる。

輝く高校生・高専生インタビュー

鳥取を舞台に輝く若い力。  
未来をみつめ、がんばる高校生・高専生を紹介する。



輝く高校生・高専生インタビュー

鳥取を舞台に輝く若い力。  
未来をみつめ、がんばる高校生・高専生を紹介する。



## 仲間とともに全国大会へ

ふなこしりの  
米子北斗高校 (2年) 船越 莉乃 さん

幼少期から剣道を始めた。剣道部のキャプテンとして高め合える空間づくりに努め、部員への声かけなど気配りを欠かさない。団体・個人ともにインターハイ出場を目指し、日々稽古に打ち込んでいる。



剣道は個人競技だが「団体戦は5人と気持ちを一つにしてみんなで戦っているのが好き」と団体戦にひときわ思いを込める。

現在の団体戦でのポジションは4番手の「副将」。副将で試合が決まってしまうことも多く、プレッシャーが大きい、厳しい稽古をしてきた自分を信じて試合に臨む。得意技は「出小手」。「相手に飛び込んでいくのではなく、相手の動き

を使って技を決める」戦法。「他校の選手を見て新たな技を取り入れて実践するのが楽しい」と研究熱心な「業師」だ。

1年生から全国の舞台を経験したが、1勝が遠かった。「実力が足りなかったと感じるし、他校は試合前の練習や行動も違い強く見えた」と課題点を挙げる。「インターハイでのリーグ突破」を目標に掲げ、ともに汗を流した仲間とともに勝利をつかみにいく。

## 人工衛星の可能性を 探究

えんどう あい  
米子高専 (3年) 遠藤 愛 さん

幼い頃から見上げてきた美しい星空が、宇宙への探究心を育んだ。人工衛星を活用して地球上のさまざまな課題の解決に貢献できる技術者を目指し、学びの場を広げている。



弓ヶ浜海岸や大山で見る星空、米子市児童文化センターでの天体観測など、子どもの頃から宇宙に親しむ環境が身近にあった。現在は人工衛星に関心を持ち、その活用法を探究している。

総合工学科電気・電子コースの学生として勉強や部活に忙しい毎日を送る中、課外活動として全国の高専生を対象にした「宇宙システム利活用人材育成講座」に参加。人工

衛星の開発に携わる徳光政弘准教授(同科情報システムコース)をはじめ、多様な専門知識を持つ教員との出会いも学びの幅を広げた。人工衛星は「都市も地方も平等に観測でき、さまざまな課題の解決に役立てることができる」と大きな可能性を感じ、データの活用方法などの学習に励む。部活は剣道部と科学部を両立。「やりたいことはやってみよう!」と、好奇心全開でチャレンジを続ける。

## ダンスで届ける 笑顔と元気

おかだ はるむ  
米子松蔭高校 (2年) 岡田 美睦 さん

見る人の心に響くダンスを目指し、仲間とともに表現を磨く。初めて出場した「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」では、手話を通じて「伝える」ことの奥深さを学んだ。



ダンスを始めたのは中学生の頃。好きな曲で踊れること、いろいろな人と楽しめることに魅力を感じた。「ジャンルや人によって動きが全然違うから、見るのも楽しい」と、動画などで研究に励む。

ダンス部で部長を務め、持ち前の明るさで部の雰囲気づくりに努める。日々の活動では技術面に加え、「感性を育てる」をテーマに表現力を磨いている。手話パフォーマンス甲

子園では手の動きだけでなく、表情なども含めて「いかに伝えるか」を追求。部員の絆も深まり、「賞以上のものが得られた」と振り返る。

地域のイベントに参加する機会も多く、「元気がもたらえた」といった声が必要な励みになっている。「笑顔と明るさが私たちのモットー。先輩たちが大切にしてきたものを受け継ぎ、見る人を楽しんでもらえるダンスをしたい」と目を輝かせる。

輝く高校生・高専生インタビュー

鳥取を舞台に輝く若い力。  
未来をみつめ、がんばる高校生・高専生を紹介する。

